

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0874300841		
法人名	アサヒサービス有限会社		
事業所名	グループホームみやびの里		
所在地	茨城県古河市駒羽根1420-1		
自己評価作成日	平成23年2月1日	評価結果市町村受理日	平成23年5月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自立支援・笑顔。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://ibaraki-kouhou.as.wakwak.ne.jp/kouhou/infomationPublic.do?JCD=0874300841&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成23年3月12日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

地域に密着した事業所を目指して自治会・老人会に加入。自治会総会に代表が参加したり、利用者は職員と一緒に環境美化活動に参加している。地域のコミュニティセンターの発表会(踊り・吹奏楽・フラダンス等)に出かけ、地域で今まで通りの生活が続けられるよう自立に向けた支援に努めている。事業所主催の納涼祭・新年会に地域住民の参加があり、数十名が参加し、家族と共に利用者は楽しい一時を過ごしている。日々の生活が自立支援につなげるよう、個人個人にあった、きめ細かなケアを提供している。管理者・職員のチームワークがいいので働きやすい環境であるとの職員の意見であった。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	開設当初から職員と共に作成した理念がホールに掲示され毎朝利用者と一緒に唱和している。	開設時に職員と作成した理念『あなたらしさ、私らしさを大切に・地域と繋ぐやさしい手で・ホッとできる安らぎの場を』とホールに掲示し、毎朝体操後に利用者と一緒に唱和・確認を行い、自立支援と拘束のないケアに努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会・老人会に加入している。	自治会・老人会に加入し、環境美化に参加したり、コミュニティセンターで開催される発表会(踊り・吹奏楽・フラダンス等)に出かけている。事業所主催の納涼祭・新年会は回覧板を回し、地域住民やボランティアに参加してもらい、家族・利用者と一緒にひと時を過ごし親睦を深めている。地域に向け毎月地域新聞を配布したり、町会総会で事業者に対する理解を得る様努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の清掃に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	5月に開催したが、次回開催予定が決まっていない状況。(年2回開催すると決めたが具体的な日を決めなかった)	行政・家族・自治会・老人会会長・警察官・事業所担当者と開催し、現況・活動報告を行い、意見を聞きサービス向上に活かしている。今年度は2回開催予定である。家族からは事業所の要望に協力するとの声があった。	運営推進会議参加者による率直な意見を取り上げて、介護や運営等の質の向上という目的・意義を再確認し、積極的に行政・地域に向けた働きかけを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	生活保護担当の市職員の訪問は月1~2回程度あり、スタッフ・担当職員が生活状況について報告している。	運営推進会議の他、生活保護担当職員の訪問があり、利用者の生活状況を報告している。中学生に体験学習の場として提供。小学生・幼稚園児訪問時には分かりやすく認知症について説明を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束会議を実施している。建物の構造上危険を伴うことがあるために、やむをえず施錠しているところもある(家族には承諾書ももらっている)。車椅子の点検は1ヶ月に一回もしくは随時おこなっている。	3ヶ月ごとに身体拘束に関する会議を実施し、個々の問題症状・評価を行い、身体拘束となる行為・リスクを理解し、安全に配慮したケアに努めている。危険防止のため階段の施錠・ベッドの4点柵をしているが、家族に同意を得ている。車椅子の点検は適宜実施。スピーチロックは職員同士で気をつけている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	会議・申し送り等にて職員同士呼びかけ合い防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修・会議等にて随時おこなっている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時内容を説明している。疑問点はその場にて解消できるよう努めている(施設長・ケアマネ)解約時は退去後の事を家族と相談し本人にとって最良の選択ができるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会・面会時等で何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意し、出された意見・要望等を職員会議・責任者会議で話し合い反映させていくようにしている。	意見箱の設置、第3者担当窓口を明示し意見の言い出しにくい利用者・家族に配慮している。直接聞く機会として、面会時のほか年2回の家族会でユニット長が一人一人から要望・意見を聞いている。オムツの金額が高いので業者に掛け合っ欲しいとの要望で、業者と相談し少し軽減された。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体的な会議(1階ユニット+2階ユニット)としては検討中。	全体会を開催し職員の意見や要望が書面で確認された。食材の工夫については4月から改善予定。その他運営上の要望(駐車場の増設、休憩場の確保)については、口頭で社長より(やる予定)との返事があった。勤務体制・研修は職員の希望に応じている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	努めていると思う。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員のスキルアップしてほしい研修に参加を勧めている。自主的にもおこなっている。学んできたことをレポート提出してもらい、ミーティングにて発表してもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他施設との交流をし、互いの施設で研修を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご自宅や入居先に伺い実施調査行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時に電話等で傾聴し受け止め、改善できるものは改善へ随時検討している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実施調査に伺い、相談者・施設長・ケアマネ・必要であれば管理者との話し合いの中からGH入居が適しているか十分に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々も生活・人生を知り個別支援を行い職員と共有している。利用者の居場所作りを行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	情報の聞き出しをしながら面会時には外出をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時に呼びかけてもらっている。	家族の了解を得て、友人に電話をしたり、面会に来てもらい、これまでの関係が途切れないよう支援に努めている。友人宅に他の利用者と一緒にでかけたり、自宅にもどってお茶を飲んだりしている。、家族の協力の下、買物・外泊に出かける利用者がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士が助け合っている。職員には頼みにくいが入居者同士なら頼みやすいところがある様子で仲間意識が強くなっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者(家族も含め)が望めば随時対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族・本人・本人情報を確認しながら情報集めを随時行っている(より良い関係作り・暮らしができるように)。	利用者一人一人に合った支援に努めるよう、家族・利用者から情報を得て思いや暮らし方の希望・意向の把握を行っている(関西出身の方には関西弁で話す。手話にて会話を行う。就寝時間の延長等)。職員間で注意していることは、利用者の立場になって検討しているかと話し合っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族・知人・友人の面会時の交流を深めて情報の共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック・排泄・食事状況・夜勤者からの申し送り事項を把握し各入居者に合った1日になるよう支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族・入居者の要望を尊重し職員と話し合い入居者にとってより良い暮らしができるケアプランを作成し、モニタリング等で毎日の評価をしている(毎月1回個々の対応について検討)。	家族・利用者の意見・要望を聞き、利用者がより良く暮らすための課題とケアのあり方について担当者会議を開催し、ケアプランを作成している。作成後は利用者・家族に同意を得ている。モニタリングは毎日実施し、評価をしている。状態変化時は現況に即したケアプランを作成。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日中・夜間と個別のケース記録に残し共有する為業務日報・申し送りで連絡し共有をしている。		

茨城県 グループホームみやびの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	デイサービスの利用(書道等)。受診時介護タクシーの利用。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティア・慰問(踊り・演奏等)・地域小学生の学習(訪問)・防災訓練・救命講習の参加。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	随時の訪問看護・2週間に1回の訪問診療。	2週間に1度の往診・1週間毎の訪問看護を受けている。受診後は記録に残している。大切な内容は直接医師が家族に説明をしている。かかりつけ医・専門医受診には家族が付き添い、報告を受けている。緊急時の職員付き添い時は電話にて家族に報告し、記録にも残していることが確認出来た。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間体制で訪問看護に連絡可能。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	ほとんどが訪問診療の主治医に紹介された病院に入院可能。入院した時は2日に1回の割合で職員が病室を面会(訪ねる)。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族・本人の希望を重視、医師との連携をとりターミナル期のケアプランを立て職員で共有し支援している。	家族・利用者の思いを尊重し、ターミナルに関する同意書を得ている。重度化した場合は家族・医師・職員と話し合いを重ね、連携をとりケアプランを作成し、職員間で共有し支援に取り組んでいる。ターミナル期には毎日訪問看護が来る。家族から感謝の言葉が聞けたことが影身になったと、職員の聞き取り時に伺えた。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に消防による訓練を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	入居者・職員全員にて本番さながらの避難訓練を行っている(夜間の避難訓練は検討中)。	消防署立会いの避難訓練・消火器使用方法・緊急通報を実施し、避難経路・利用者の行動の把握に努めている。夜間想定訓練は5月に実施予定であるが、地域協力体制については家族の承諾を現段階では得られないので検討中。飲料水、非常食は備蓄している。	今後いつ発生するかもわからない災害に備え、また職員の不安を解消するために、現時点で出来る範囲での夜間想定訓練の実施を期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	新人職員は入社時オリエンテーションとして権利擁護等の知識も含む研修を行っている。古い職員等にも勉強会等にて意識させるようにしている。	人生の先輩として利用者に対する言葉掛けは丁寧で落ち着いた対応と感じた。契約時に個人情報保護法に対する同意書を写真・広報の掲載を含め得ている。書類関係は事務室にて管理。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望・想いを普段の会話の中から表出しやすいよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個別支援・自立支援の重要性を職員全員が把握し、その入居者に添った支援を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	月1回の理容。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日行っている。	栄養士が立てた献立だが、利用者の希望の刺身を盛りいれている。利用者の出来ること(調理・下準備・味付け・配膳・下膳等)を行い、夫々一連の作業でやりがいを感じている。職員も同じテーブルで食事し、楽しい会話のある食事風景である。おやつ作りは利用者の楽しみである。(パンケーキ・大福・あんみつ・パフェ等)	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分量・食事量の記入。一人ひとりの食事量・食事形態も違うので個別に対応している。栄養士が献立を作成している。		

茨城県 グループホームみやびの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	残存機能低下を防ぐ為にトイレの使用はできるような支援している。	排泄パターン・表情・様子から察知し、トイレに前誘導し排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。オムツやリハビリパンツの枚数を減らすように支援している。失禁時には居室・トイレで対応し、利用者のプライバシーの尊重に気をつけている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表にて確認している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	きぼうに沿って行っている(希望者は足浴も実施している)。	基本的には2日毎の入浴支援であるが、希望があれば毎日でも可能である。足浴・清拭で対応するときもある。季節に応じて庭になっているゆず湯・菖蒲湯を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望・体調に応じて就寝時間が個々に違う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の変更は随時連絡。個々の処方箋ファイルがあり確認できるようになっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作り・おやつ作り・外食を随時行っている。		

茨城県 グループホームみやびの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩は随時(天気等みて)おこなっている。遠出は季節に応じて行っている。	外食・ドライブ・お花見(桜・桃)・神社に初詣等、季節に応じた支援のほか、天気のよい日は利用者の体調をみて散歩に出かけ、外気を浴び、五感の刺激を受けている。パチンコ店の職員教育の一環として利用者に招待があり、近々出かける予定との事。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の金銭管理は事務所でやっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望がある時は電話している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	職員・入居者・家族で話し合い心地よい居場所づくりを心がけつつ、随時検討している。	共有空間は混乱の無い様、トイレ・お風呂と大きく表示されていたり、機能低下や安全にも配慮されている。利用者の習字や折り紙がホッとする温かみのある雰囲気を作っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	何回か試してみたが該当する場所がない(ハード面で不可能)。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のなじみの品があり個々のカラーが出ている。	家族に使い慣れたものや好みものが利用者の安心できる居室であると説明し、三面鏡・筆筒・テーブル・テレビ・椅子等や趣味の草花・家族の写真・ぬいぐるみ・目覚まし時計等を安全に配慮し設置され、利用者にとってホッとできる居室となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	PTトイレの設置・整理ダンスがあり服を自分で入れたり出したりできるよう自立支援している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	日常的に地域との連携を強化したい。	入居者が、行政や運営委員等との関わりが深まる事で、日常の介護の質が高まり、地域社会とより連携した生活をおくる事ができる。	運営推進会議参加者による率直な意見を取り上げ、介護や運営等の質の向上という目的、意義を再確認し、積極的に行政、地域との具体的な連携方法を検討し、実践していく。	12ヶ月
35	13	夜間の災害でも、安全に避難ができる体制を構築したい。	夜間の災害でも、安全に避難ができる体制を構築できる。	運営推進会議で駒羽根区長、近隣の方々に協力をお願いし、夜間想定防災訓練について検討し参加協力を図る。	12ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。